

THE KOBECO

1984

3

MARCH NO. 275

月刊神戸っ子

神戸っ子 昭和40年1月20日 第三種郵便物認可
昭和59年3月1日印刷 通巻275号
昭和59年3月1日発行 毎月1回1日発行



'84 BENIYA SIMPLISTIC ELEGANCE

春…萌えてエレガンス

芽生えの時のシンプルな色感に

萌え立つ季節のあざやかな色彩がそっとひそんでいるように

それこそ秘めたる花の＜ベニヤ＞スプリングコレクション——

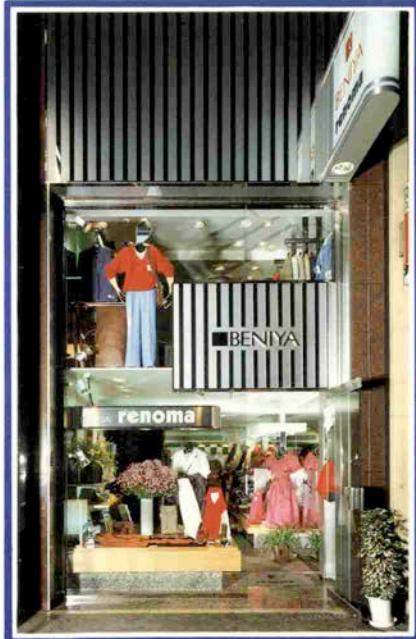
'84 シンプリスティックエレガンスの優雅なフレビューです。

今、話題のレノマショップに新しい仲間が……

イタリアンカジュアルのPALVIS

“メンズパルビス”がデビュー！

レディスレノマも、萌え出る春を讃えます。



renoma
BENIYA

レノマショップ／神戸市中央区三宮町2丁目10-7 三宮センター街 TEL.078(332)0780/8

TASAKI SHINJU

創立30周年
30

海の星を身につけて、あなたは今宵の星になる。

ニュークラシック・キュイジヌ。[ヴィアンヴィ]。
ポートアイランドに誕生。

esprit de cuisine

RESTAURANT & BAR

V and V
ヴィアンヴィ

レストラン&バー[ヴィアンヴィ]。3月3日(土)オープン。

神戸市中央区港島中町6-8-1 株式会社ワールド新本社ビル26F TEL.078-302-5700 営業時間P.M.5:00~A.M.0:00 年中無休

スケッチブックから(63)

ヨーロッパを描く

メトロ・オーステルリツ駅ホーム



絵・西村 功

春は花

人生は祭り

おとぎの
加藤登紀子の

辛口の唄で



●ゲスト／加藤登紀子／ほろ酔いショウタイム
ほろ酔い
世界の酒祭り

●ゲスト／加藤登紀子／ほろ酔いショウタイム

月刊神戸っ子創刊23周年記念パーティ

'84世界の酒祭り

とき
4月18日(水)

午後6時～8時30分

受付・午後5時30分

ところ

神戸国際展示場2階

ポートライナー市民広場駅西

かいひ

8,000円

飲んで、食べて、踊って

主催／月刊神戸っ子 後援／神戸百店会

お問い合わせ／月刊神戸っ子

神戸市中央区東町113-1 大神ビル9階 ☎078-331-2246

●プログラム
第13回ブルーメール賞表彰式

●受賞者

時里 二郎(文学部門)

末広 光夫(音楽部門)

藤原 志保(美術部門)

花柳五三輔(舞台芸術部門)

「真珠の街神戸」を考えるプロジェクト会議
(ファッショングループ)

昭和59年度神戸酒徒番附発表

東(文化人)

横 綱 田辺 聖子

張出横綱 鴨居 珍

張出横綱 望月 美佐

西(経済人)

横 綱 田崎 傲作

張出横綱 畑崎 廣敏

張出横綱 上島 達司

チャリティ福引大会

サンバ・フィーバー 月刊神戸っ子サンバチーム

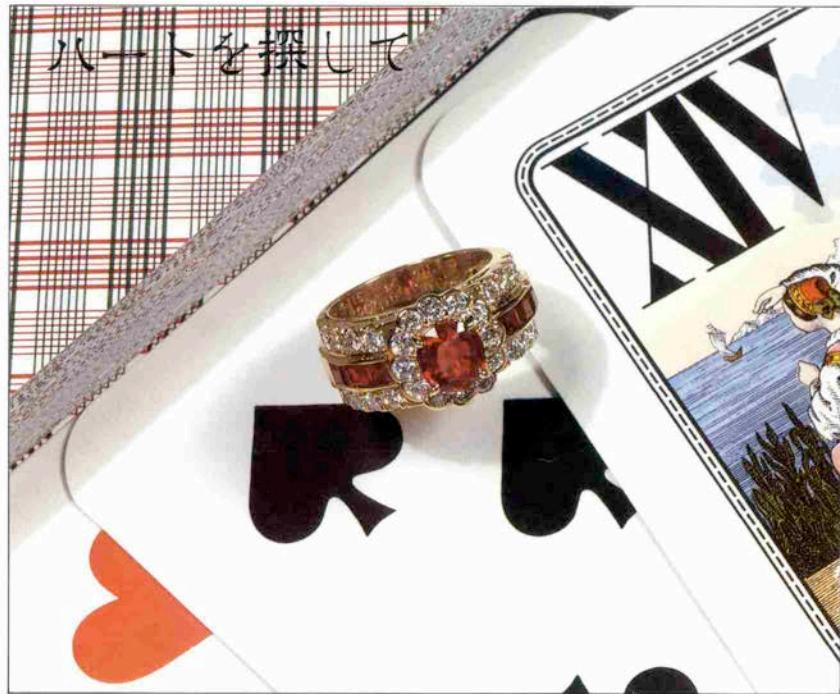
ニューヨークの休日

南インターナショナルは、グローバルな活動の中で
本当のインターナショナルリゾートライフとは何か
を追求しつづけます。



トップビジネスマンのE.Max氏は、毎年
クリスマス休暇を利用して、ハワイのマウ
ナケアビーチで、ゆったりとしたリゾート
ライフを楽しめます。





Tajima
宝飾店 タジマ

元町2丁目 TEL 331-5761代表

墨と紙の成す諸現象を捉える——藤原 志保

(平面・造形作家)

和紙の上の一本の線だった作品は、紙ごと盛り上がり、アトリエを飛び出し、太陽光線にさらされたり、灯油をかけて燃やされたりしながら変化していった。幼い頃から、日本画家だった祖父のもと、ごく自然に墨と紙、そして、丹波の自然に親しむ。描くことが好きな彼女も仕事には看護婦を選んだ。毎日のきつちりした仕事が描くことの源になっているという。26歳の頃、丹波文化会館に水墨画の作品を持って売り込みにいった。当時の館長はこの無鉄砲な女性に一片の才能の芽を見出し、3か月で30点の作品を描いてくるようにという。それに応えた彼女はそこで個展を開いてしまう。その館長とは現県立近代美術館副館長小山泰三氏だった。30歳頃から作風が変化してきた。「どんどんとしたものの中に人間の本質が見える」という。現在では専ら水墨画の領域を越え、納得がいくまで墨と紙の成す諸現象に付き合う。昭和19年西宮市生れ。昭和58年サロン・ド・招待他、彼女の作品は日本でより先に欧米で評価されている。

(灘区の自宅にて)



『迷宮』への憧れを詩う狩人——時里二郎

（教員）



僕にとって、詩を書くことは、いわば『宇宙の種子を孕む』ことなんです。——黄昏の河口に佇む孤高の詩人、時里二郎がようやく重い口をひらいた。ごつごつとした一塊の岩が水の流れゆく先をはばもうとするさまに似て、一つの存在が時代への大いなるメッセージとなる。錯綜した世紀末の世界、その全体を詩によって捉えようとする一人の知的狩人の出現だ。「僕は自分が詩人であるというよりも、記述者、あるいは一人の語り手でしかない」と思っているんです」受賞の対象となった第2詩集『胚種譚』の中の一篇、「荒ぶるつわものに関する覚書」に登場する、つわもの伝説の語り部、筆者は時里自身かもしれない。

現実を超えた「向こう側の世界」への憧れ、永遠に至りつけない世界だが、今、僕らの眼に映る現実の中にはその世界への入口があるような気がする……。

今年の4月には、詩と版画の同人誌「容器」を発刊する予定だ。昭和27年、加西市生れ、蠍座。

（冬の加古川河口にて）

初リサイタルで花開く

花柳五三輔

(舞踊家)



5歳のときに花柳芳五郎師のもとに入門し、8カ月で初舞台を踏んだ。幼い頃は病弱であったが、踊りの稽古を重ねる間に丈夫になり、現在は、水泳、テニス、ゴルフなどで、体力作りに余念がない。母は民踊の黒石紫月師で、その片腕もある。38年に名取りとなり、43年、専門部に加わる。47年、五三輔会を神戸国際会館で開催する。この会は、毎年、行われており、昨年その集大成として、国際会館で初のリサイタルを開いた。本番の1日前、練習中に肩を脱臼するというアクシデントにもかかわらず、「蚕取男」「鏡獅子」「北州」「うかれ坊主」「小鍛治」の5本を見事にこなし喝采を浴びた。

特に「鏡獅子」での弥生は、古典舞踊のよさを今に甦らせるほど完成度の高いものであったとの評だ。

「これからは、本格的なリサイタルよりも、小さなホールで数多く演つて、少しづつでも日本舞踊ファンが増えていくればと思っています。」と語る五三輔さんの目は未来へ向けて輝いていた。

(紫月会お稽古場にて)

僕はアマチュアを育てたい——末広 光夫

（音楽プロデューサー）

「僕はコンサートホールでのジャズコンサートに批判的なんですよ」隣に誰が座っているのか分らぬ
い真つ暗なホールで、何時間もじっと座つてジャズを聞くなんて、彼には信じられないことなのである。
昭和27年頃、米進駐軍のラジオ放送で、当時ロスアンジェルスのジャストジャズコンサート等のプロ
デューサーだったジン・ノーマンを知り、彼の熱烈なファンに。音楽プロデューサーの道を選んだのも
彼の影響だ。

昭和31年ラジオ関西入社以来、数々のコンサートをプロデュース。中でも56年のボートビアジャズフ
ェスティバルは彼の人生における最大のイベントだったという。「でもこれ1度きりなんて……」とこのジ
ャズ祭を翌年北野町にそつくりもつていつた。コウベジャズストリートのスタートだ。「小規模だけど、
お客は日本一。東京ではできません」という。今度は世界中のアマチュア演奏家を集めて、ジャズオリ
ンピックを開くつもり。「今年から世界のアマチュアジャズメンの発掘に走ります」

（北野町にて）



●第13回ブルー・メール賞受賞者

ファッショングループ
部門

／カメラ

米田 定蔵

若さとパワーで輝く真珠の街に――

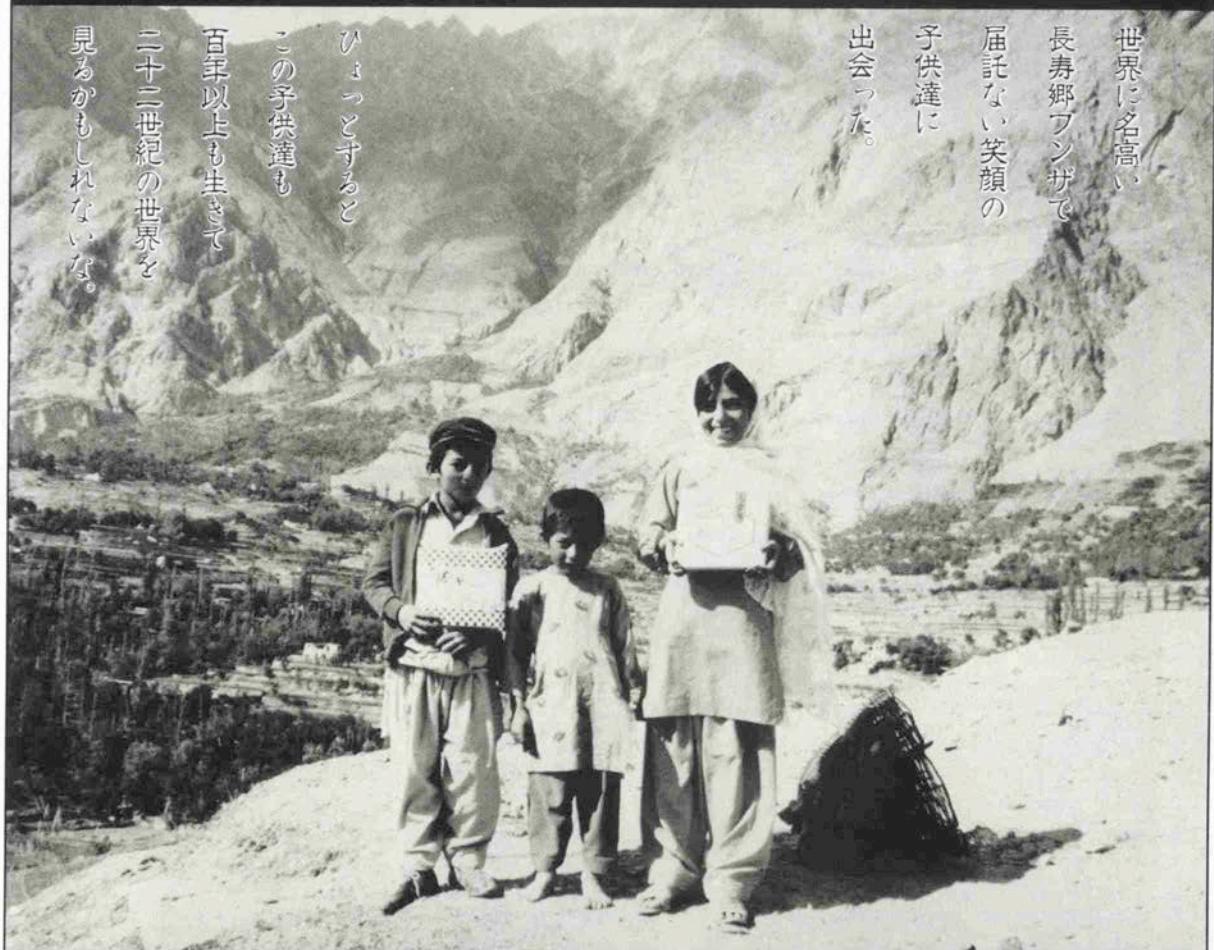
〔真珠の街・神戸〕を考
えるプロジェクト会議

神戸は、全国の真珠の80パーセントが集散する“真珠の街”である。全国の真珠生産地から真珠を集荷し、加工して全国、世界各国へと送り出している。神戸には250を越える業者が集つて居るが、業界の若手が集つて結成されたのが“真珠の街・神戸”を考えるプロジェクト会議”だ。代表者の高橋洋三さん(タカハシバール副社長)をはじめ30名のメンバーが、真珠の街・神戸”を一般にアピールするために、知恵を集め、イベントを打つたり、内部研修をつづけている。発足は「ボートビア'81」開催の年。昨年は、神戸貿易促進センターでの“真珠の街・神戸一バーレフエア'83”に積極的に取り組む一方、神戸まつりの中央パレードにも初参加、ミニバールを風船につけて飛ばすなど、マスコミでも話題を呼んだ。さらに全国の若手業者が集まる“若手が集う会”のリーダー的存在でもある。ファッショングループ都市神戸の屋台骨を担い、真珠のように夢とロマンにあふれる期待される若者たちだ。

(神戸真珠親睦会事務局前で)



KOBE LUNCHEON · AWAJIYA IN HUNZA



世界に名高い
長寿郷ブンガで
届託ない笑顔の
子供達に
出会つた。
ひょっとすると
この子供達も
百年以上も生きて
二十二世紀の世界を
見るかもしないな。

お弁当の 淡路屋

神戸市中央区相生町3-1-1
〒650 ☎ (078) 351-1682



Beautiful eye
●わたしとメガネ

まるで親しい友達のような店

バレンタイン・F・モロゾフ

《布コスモポリタン》製菓代表取締役

服部メガネさんとは父の代からのお付き合いですが、いつ訪ねても変わらないお店の雰囲気が好きですね。お店の方も話題が豊富でメガネのことより、おしゃべりに夢中になってしまふことも…。実は丁度今日、「大正十五年の聖バレンタイン—日本でチョコレートをつくったV・F・モロゾフ物語」という本が出版されたのですが、今日こちらへ来てみますともう、お店の方がその本を買って下さっているんです。技術はもちろんですが、友達のような信頼関係が何より嬉しいですね。

服部メガネ

神戸・大丸前

☎(078)331-1123

エトランゼの 輪郭 25

松本 宏

1934／兵庫県に生まれる 1957／東京芸術大学油絵科卒業 1962／
シェル美術賞展「3位」入賞 1964／行動展にて行動美術賞受賞、
会員推举 1973／金山賞展にて第1回金山賞受賞

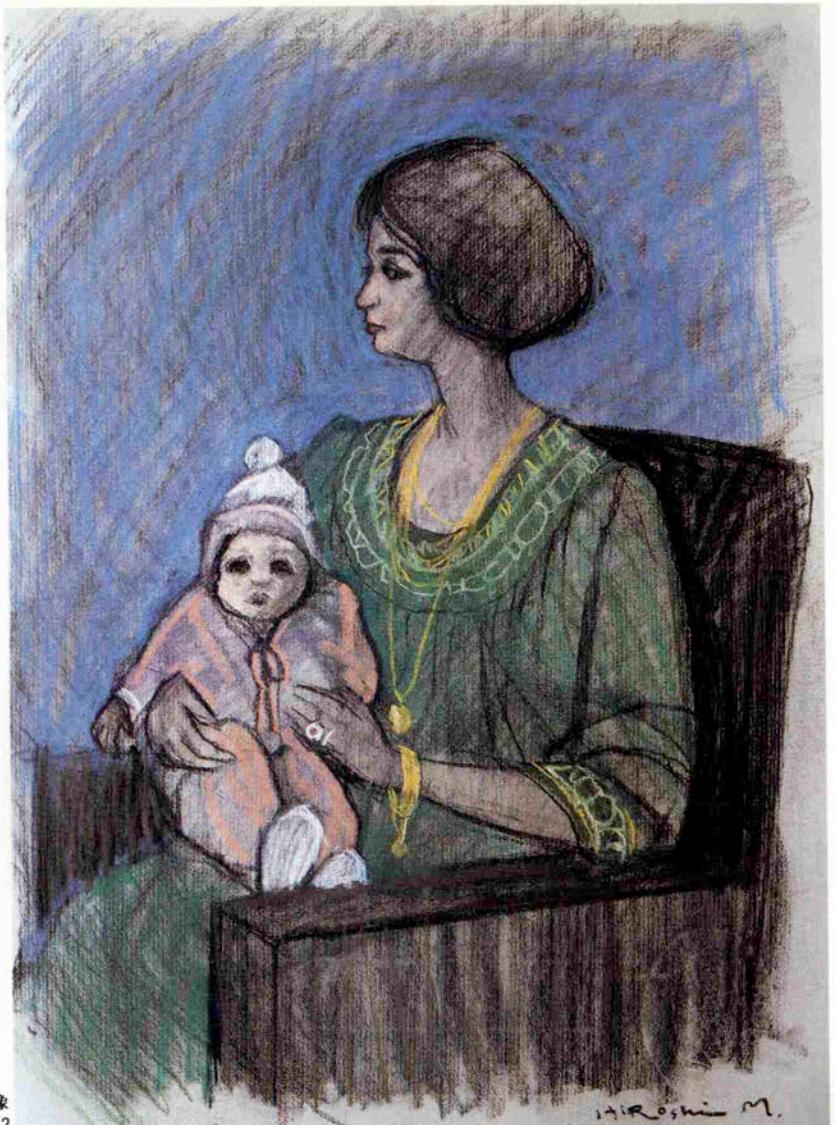


モデル／マドレーヌ・梅若さん(レバノン)

黒き瞳のプリンセスと赤ちゃん

昨年のこのページでモデルをして頂いた石黒マリーローズさんの妹さん、梅若マドレーヌさんと生後6か月足らずのクリクリとした愛らしい赤ちゃんの母子像を描かして頂いた。御主人の梅若さんは六百年の伝統を受け継ぐ能役者の家に生まれた若き能楽師、彼女はイラク王族の血を引くプリンセスで、現在は東京大学大学院でコンピューターサイエンスの研究をなさっているとのことである。

実際に楽しく描かせていただいた。しかし黒い瞳を持つその清楚でノーブルな雰囲気を描き出すには、私の表現力ではまだまだ稚拙なものだと感じてしまい、いつの日にか又、油絵でもっと時間をかけた仕事をさせて頂きたいと思つたことである。



母子像
F12

HIROSHI M.